

(一社) 日本ハンギングバスケット協会 (JHBS) の歴史

(一社) 日本ハンギングバスケット協会第4代理事長

武内 嘉一郎

ハンギングバスケット協会 (JHBS) の 夜明け前 (1988-1996)

1990年大阪にて花博が開かれてから、すでに27年も経ちました。花博会場には、たくさんの花が飾られ、多くの園芸家たちが足を運びました。中でも立体花装飾と称し、ポールに吊り下げられているハンギングバスケットは、欧州の花飾りを観てきた多くのファンにはたまらなく素敵でした。開会2年前の1988年に伊藤商事が開発した器材で飾られたもので、欧州とは手法が違うものですが、雰囲気は出ていました。

当時、ハンギングバスケット懇話会なるものがありました。1991年2月にはフラワーバスケット懇話会と改称し、兵庫県のユニットピアささやま(当時の館長辻本智子氏)を拠点とし、代表世話人は故・坂梨一郎氏で園芸関連7社の協賛を得て正式に発足しました。



日本ハンギングバスケット協会の前身である
懇話会当時の制作(故・坂梨一郎氏と共に)

1991年7月、ユニットピアささやまにて、第2回フラワーバスケット懇話会を開催するとともに、初めてのハンギングバスケット大会を開催しました。大阪花博後、咲くやこの花館でボランティア活動をしていた方

達が多く作品を出展しました。その後、10月には愛知県緑化センターで一般公募による日本初のハンギングバスケット展が、さらに1995年には名古屋市栄公園での「世界公園フェスティバル'95」におけるテナ花壇コンテストに出展し、多くの人の目に留まりました。

同年、『四季を楽しむ立体花壇ハンギングバスケット』なる書籍を坂梨氏が発行しました。

1996年3月31日、ついに、日本ハンギングバスケット協会が発足いたしました。当時のRHSJ(英国王立園芸協会日本支部)専務理事 蟻正宏行氏作成の草案によりRHS(英国王立園芸協会)本部の承認も受けました。

名古屋駅前毎日ビルでおこなわれた設立記念パーティーには144名の同志の参加があり、私もこの発会式典から参加し、同時に、東日本エリアを取りまとめる理事として就任いたしました。同年9月から11月にかけて、現在のハンギングバスケットマスター資格試験が始まりました。筆記試験や実技試験をし、当時活躍している人たちに受験するようお願いしまくった思い出があります。

発足時の思い

「そもそも何故、日本ハンギングバスケット協会が誕生したのでしょうか?」と聞かれることが多いです。花博が開かれ、園芸業界は、これからますます発展していくはずでした。園芸界がこれまで右肩上がりの時代を経て、花博が開催されれば、言うことなしという状態であります。しかし、社会全体の経済環境が落ち込み始めた時代でもありました。私は、生産者でありながら、販売店も持っており、その売上高や消費の傾向が違い始めてきたことに不安を覚えていたころでもありました。そののち、2000年頃をピークに園芸界が右肩下がりに転じたことはご承知だと思います。花をもっと街全体で使ってもらいたい!! 花の力をもっと知ってほしい! などなど、生産者側からの思いでした。一方、坂梨氏は、園芸の楽しみ方における

‘おしゃれ園芸’を提唱していました。育てる園芸から飾る園芸です。まさしく、ハンギングバスケットは立体的に飾る園芸です。そして、地面や鉢に植える植物に加えて、空中にもその場が広がれば、業界としてもその市場が増す、ということになります。そこに、日本の気候に合う新しい器材が開発され、3拍子揃ったスタートといっても過言ではなかったのです。私としても、自分の会社を盛り上げるためにも、また、社会貢献するためにも真剣に取り組む必要性を感じました。

そのためにも、まずは協会の存在を知らしめるための努力は欠かせません。ある時には市役所に行き、「欧州の現実と日本のこれから」などと偉そうなことを言いまくりました。またある時には、得意なジャンルではないトークショウ的なことに積極的に出てみたりもし、非常につらかった思い出があります。RHSJとの連携で試験に合格すると同時に、RHSJ認定証の発行、RHSJ会報誌へのニュース掲載なども行っていました。

とにかく、「会員を1,000名作ろう！」というスローガンを理事の間では持っていました。場合によっては、「1,000名のハンギングバスケットマスターが誕生したら、協会は解散してもよいのでは！」という意見もあったくらいです。ハンギングバスケットマスターが市民にハンギングバスケットの良さを伝えてくれることを協会の目的としていたため、会の存在自体は重要ではありませんでした。

発足から10周年まで（1996－2006）

そして、小さな船は、大海に向けて出帆したのです。発足翌年（1997年）の9月から11月には、全国3か所にて第2回認定試験が始まりました。同時にマスター会と称して、西日本地区では咲くやこの花館にて、中日本地区ではヒューマンアカデミー名古屋校にてそれぞれ活動発表をおこない、東日本地区では東京都立大学にてシンポジウム（花の街づくり）を行いました。

東日本地区の第2回認定試験では東京都立大学にて筆記試験、最寄駅の南大沢駅前通路にて協会のアピールもかねて実技試験を行いました。出展する人も初めて、審査する人も初めて、街に飾ることも初めてという初めてづくしのスタートで、不安と期待でいっぱいであったことを思い出します。

1998年8月、第1回全国マスター会が愛知県名古屋市公会堂にて行われ、以後、2015年まで毎年開催されています。全国のハンギングバスケットマスターが一同に集い、情報交換や知識・技術のスキルアップをお

こなう会です。この時には東京農業大学の近藤三雄教授に基調講演をお願いいたしました。現状の活動を「このままでは、明日はない！」との内容で叱咤激励されたものです。「それでは、皆で明日があるようにしましょう」と奮起しはじめた時でもありました。今思えば、当時の協会が目指す街の花飾りは、まだ家庭の扉やコンテストのための作品作りに終始していたのかもしれない。

1999年3月、初めての会報誌の発行が始まりました。年4回の発行で、会員と関連各所に配られ、2017年7月号でNo.73となります。もちろん、ほとんどがハンギングバスケットやコンテナガーデンの作品写真と植物の基礎知識、デザインなど、会員のスキルアップにつながる内容です。この年は多彩な事業が展開した年でした。西武ドームで行われている「国際バラとガーデニングショウ」でのハンギングバスケットコンテストの始まった年でもあります。2018年には記念すべき第20回が開催予定であります。また、第2回全国マスター会では高円宮妃殿下をお迎えし、盛大に開催されました。高円宮妃殿下をお迎えできたのは、日本橋三越における園芸文化協会主催のハンギングバスケットコンテストを視察された際に、妃殿下のおよろこびになる姿を拝見し、お庭に飾らせていただいた経緯があります。以降、現在もその活動は続いており、すでに20年弱毎日置かせていただき、お声をかけていただいています。

また、この年は、初の支部が結成された年でもありました。全国統一の目標となると抽象的になりがちです。支部単位でその目標達成に向けて活動することを本部からも応援する姿にしたのです。そして、長野県の会員が率先して支部を結成、以降、毎年のように支部が結成され、現在31支部あります。（8頁の図1参照）

2000年7月、淡路花博の花の館に出展し、色でのデザインに重点をおき、面的に魅せるハンギングバスケットを紹介しました。同時に第3回全国マスター会を淡路夢舞台国際会議場にて開催しました。

2001年7月、第4回全国マスター会が愛知県産業貿易館にて開催され、この頃より全国を3つのエリアに分け、順番に全国マスター会を開催することが定例化し、会の締めくくりとして、バトンを取り交わす習慣ができていました。結果、次の年の開催県や担当者は、すでにその準備がおおむね完了するくらいの気持ちで臨んでいたのかもしれない。

図 1. 支部結成年月

結成年月	支部名	備考
平成11年11月1日	長野県支部	初めての支部結成
平成12年1月29日	埼玉支部	
2月10日	静岡県支部	
3月21日	神奈川県支部	
4月8日	京都支部	
4月27日	岐阜県支部	
9月5日	三重県支部	
平成13年1月21日	群馬支部	
1月27日	九州支部	初めての九州連合支部
10月21日	茨城県支部	
11月4日	千葉県支部	
平成14年4月1日	北陸支部	北陸3県
9月23日	愛知県支部	
11月24日	北海道支部	
平成15年6月18日	岩手支部	
平成16年1月25日	滋賀支部	
平成17年1月14日	和歌山県支部	
平成18年3月28日	栃木支部	
12月1日	岡山県支部	
平成19年1月25日	東京支部	
1月30日	大阪支部	
2月22日	福岡県支部	九州支部からの独立
3月15日	宮崎県支部	
3月18日	大分県支部	
3月25日	山梨県支部	
6月12日	宮城支部	
8月18日	兵庫県支部	
平成20年1月26日	広島・島根合同支部	
1月31日	鹿児島県支部	
3月20日	四国支部	四国として連合隊
11月8日	奈良支部	
平成22年9月17日	福島支部	
平成23年3月28日	鳥取県支部	

2002年7月の第5回全国マスター会は、東日本地区が当番で、新高輪プリンスホテルにて高円宮妃殿下をお迎えして開催しました。室内でのガーデン製作をプレゼンし、目の前でガーデンができていく姿は圧巻でした。

2003年10月から日比谷公園ガーデニングショーに参加することになりました。私が当初から実行委員として参加したのは「花を知らない造園業界、樹木を知らない園芸業界の橋渡しができないか？」という目的が

あったからです。お互いの業界にとって今まで必要がなかったジャンルであったのでしょうか。初めは、会議に参加しても水と油です。

そして、始まった第1回日比谷公園ガーデニングショーでは全国から150名ほど参加があったハンギングバスケットに造園業界からの熱い視線を感じました。「どうして？」という質問攻めでした。回数を重ねていくたびに、その理由や意味が分かってもらえるようになったと思います。以降、各地で造園界の皆様と手

を携えて行っていると思っています。もちろん、私たち園芸業界も造園技術や庭についての知識や見解を知ることになり、小さなハンギングバスケットの世界に造園技術を交える必要性を感じ始めていました。

2004年6月、浜名湖花博・国際コンテストへの出席で室内装飾展示をしました。

2005年5月、ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふでは「華空間」として、農林水産大臣賞を受賞しました。

2006年10月、記念すべき創立10周年記念式典および第9回全国マスター会を神奈川県共済みらいホールにて高円宮妃殿下をお迎えして開催し、草月流の生け花とマスターによるハンギングバスケットの共演というデモンストレーションを行いました。

10周年から20周年まで（2007ー2016）

10周年記念および第9回全国マスター会を終え、次なる11年目を迎え、新たな気持ちで協会を盛り上げていかねば「協会に明日はない！」ということになってしまいます。

そこで、2007年11月、ハンギングバスケットマスターの認定を受けた会員のうち、ある条件をクリアした方しか受験できない公認講師資格というものを作りました。同時に本部講師資格もできていたのですが、受験条件をクリアできないので、この試験は後日となります。公認講師には、マスターの指導的立場として協会を引っ張っていく、協会を社会に知らしめていただくなど、協会運営において重要な役割を担っていた、という思いであります。そして、第1回公認講師試験では全国で20名強の公認講師が誕生しました。

2008年7月の第11回全国マスター会は、北海道での開催でした。北海道支部が全面的に企画運営をし、本部では2～3回の企画会議で事が進んでいくという自主運営の姿が出来上がり、北海道支部長の下、支部員全員野球で全国のマスターを迎え入れるという素晴らしいマスター会でありました。以降、全国マスター会は、その地域の支部やブロックなどに企画運営を任せていくという形になっていきました。自主運営ができるほどの結束力が出来上がりつつあると同時に、特色ある地域での開催が大変楽しみでもあります。

2009年10月の第12回全国マスター会では、初めて全国の会員対象のハンギングバスケットとコンテナガーデンのコンテストが名古屋市鶴舞公園にて開催されました。さらに、公認講師の作品展示という形でハンギングバスケットとミニガーデンを組み合わせたガーデ

ンを作ってもらい、参加者はその完成度の高さを学び、各地域の参考となるよう仕掛けていきました。

2010年11月の第13回全国マスター会では、京都の三十三間堂の庭を使って、和風のハンギングバスケットを製作して、一般の方に見てもらうことにチャレンジしました。結果、大変好評で、京都巡りの方々が皆様カメラを向けていたことを思い出します。

2012年10月の第14回全国マスター会では、第13回で好評だったことと、上野の西洋美術館が世界遺産に登録されそうだとということで、その前面の庭にてハンギングバスケットとコンテナガーデンの展示を行いました。庭にはロダンの「考える人」などとても有名な作品があり、その周りに装飾するのですから、ハンギングバスケットが主張しないように、しかし、観てほしいという展示方法に苦慮いたしました。同時に東京では、「全国都市緑化フェア」が開催中ででしたので、上野公園全体が緑のイベントという最中でした。高円宮妃殿下にも庭の見学をしていただき、「何回も西洋美術館を拝見してきましたが、庭だけを観覧するのははじめてです。」というお言葉をいただきました。

2013年5月、「国際バラとガーデニングショウ」が第10回を迎えるにあたり、お祝いを兼ねて、協会として初めて作品展示をすることになりました。今まで、コンテストとブース運営という形では参加してきましたのですが、装飾方法や協会の存在を知っていただくために、改めて参加した次第です。



平成24年第14回全国マスター会の際に、高円宮妃殿下が御成になり、西洋美術館の装飾をご覧になっている様子

2014年4月、この年は東京オリンピック・パラリンピックの2020年開催が決定した年でもあります。早速、各方面から熱い視線を浴び、まずは、お台場の「花とみどりのおもてなしプロジェクト」への参加依頼が来ました。また、一般財団法人日本花普及センター主催の「ジャパンフラワーセレクション」での入賞植物を

広めたいという意向も併せて、それらの植物を使った花壇製作を受け持ちました。私たちは夏の花装飾はあきらめていたところですが、この契機に「夏の花の実証実験も兼ねましょう」という合言葉で始めました。



東京オリンピック・パラリンピック開催が決まり、おもてなし花壇を作成し、植物実験と会員の懇親のために行われているお台場での作業風景

2015年1月、第1回本部講師試験が実施されました。2007年に始まった公認講師試験から8年後になります。公認講師の中から、受験できる条件のそろった人が出るようになったのです。この合格者が、協会を牽引し、街の花飾りを実践していく会員となるのです。2017年現在、全国で6名いる本部講師のもと、全国の支部や会員が一致団結して目標に向かっていくところです。そして協会もおかげさまで、社会や市町村からの認知度も上がり、各地で街の花飾りやイベントに参加しております。しかし、公共団体などとの接し方や仕事を請け負うにあたり、どうしても現在の形では具合が悪いとの指摘から、この年、一般社団法人として再出発をいたしました。

2016年は、協会発足20周年の年になります。人間でいうと数えの20歳です。翌年2017年の満20歳と合わせて、20周年記念事業を行いました。一つは、協会主催の英国ツアーで、現地に行って実学を学んだり、ハンプトンコートフラワーショーを見学したりと総勢40

名の視察旅行でありました。また、ムック本として作品集と共に製作本として記念誌を発行いたしました。のちにムック本としてではなく、全国の書店に並べられるように一般書籍として発売されるなど、素晴らしい書籍が完成いたしました。

今後の展開（2017ー）

2017年6月に全国の支部長をはじめとする総代会が開催され、冒頭、理事長として今後の抱負を述べました。もちろん、夢物語になる可能性はたくさんありますが、前進することを目標にすることが、後退しないことと思っています。

協会の目的である‘街の花飾り’を推進していくことを今まで明確に発信してきました。

しかし、最近では、各方面から多くの期待と依頼があり、それらをこなすことに精一杯となっています。組織というのは「全員で同じ方向に向き、同じ思考をしていかなければいけない」ということを思うと、歩調を合わせるということは至難の業です。ある時には、多数決で決めなければいけない、ということもあり、その結果が正しかったのか？ ということは後でわかります。

街の花飾りをすることによって、何が起るのか？ さらにその効果として、何を期待するのか？ など、現在の目的の延長線上にさらに大きな目標があると思っています。たとえば、健康寿命を延ばし、医学上の費用を減らし、その後、医療費が減る。ということに影響することはあり得ると思っても、その数値的根拠がないのが現状です。少しずつ、大学や研究機関が花が与える効果を数値化しているようですが、決定的に訴えているものがまだ弱いと思っています。人を喜ばせながら、自らも楽しみ、健康なまま長生きができる社会を作る。最近では、東京一極よりも地方の時代と言われています。小さな枠組みの中で、人が豊かに生活できる社会を作ろうとしています。そんな環境つくりのためには、花は欠かせない。

花より団子 から 花も団子も という時代がきたと思っています。

全国マスター会の開催日と場所

項 目	年 月	開 催 地	備 考
ハンギングバスケット懇話会	平成3年2月15日-16日		
ハンギングバスケット大会	7月28日	ユニットピアささやま	
日本初ハンギングバスケット展	10月6日-13日	愛知県緑化センター	

世界公園フェスティバル' 95	平成7年10月1日-15日	名古屋市栄公園	コンテナ花壇コンテストに参加
『四季を楽しむ立体花壇ハンギングバスケット』発行	11月25日		故・坂梨一郎氏執筆
日本ハンギングバスケット協会設立	平成8年3月31日	名古屋駅前毎日ビル	144名参加
第1回マスター資格認定試験実施	9月-11月		
中日本地区マスター会	平成9年8月31日	ヒューマンアカデミー名古屋校	私のマスター活動発表
西日本地区マスター会	10月4日	咲くやこの花館	私のマスター活動発表
東日本地区マスター会	10月11日	八王子南大沢駅前	花の街づくりシンポジウム
第1回全国マスター会開催	平成10年8月23日	愛知県名古屋市公会堂	
ハンギングバスケット会報誌発行	平成11年3月		年4回発行、平成29年8月現在73号
第1回国際バラとガーデニングショウ、コンテスト	5月	西武ドーム	
第2回全国マスター会	8月7日	神奈川県かながわ労働プラザ	高円宮妃殿下をお迎えして開催
淡路花博にてカラーハンギングなど出展	平成12年7月11日-20日	淡路花博	
第3回全国マスター会	7月15日	淡路夢舞台国際会議場	
淡路花博RHSJジャパンガーデニングショーに出展	9月8日-17日	淡路花博	
第4回全国マスター会	平成13年7月7日	愛知県産業貿易館	
第5回全国マスター会	平成14年7月6日	東京都新高輪プリンスホテル	高円宮妃殿下をお迎えして開催
第6回全国マスター会	平成15年7月12日	滋賀県大津プリンスホテル	
日比谷公園ガーデニングショウでコンテスト等	10月	日比谷公園	
浜名湖花博・国際コンテストに出展	平成16年6月	浜名湖花博	
第7回全国マスター会	6月26日	静岡県グランドホテル浜松	
ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふ	平成17年5月	ジャパンフラワーフェスティバル	華空間が農林水産大臣賞受賞
第8回全国マスター会	6月4日	岐阜県花フェスタ記念公園	
第9回全国マスター会	平成18年10月26日	神奈川県民共済みらいホール	10周年記念式典、高円宮妃殿下をお迎え
第10回全国マスター会	平成19年10月26日	兵庫県布引ハーブ園森のホール	
第1回公認講師認定試験実施	11月17日	豊明市場	
第11回全国マスター会	平成20年7月17日	北海道国営滝野すずらん丘陵公園	
第12回全国マスター会	平成21年10月20日	愛知県名古屋市公会堂	
第13回全国マスター会	平成22年11月12日	京都府ハイアットリージェンシー京都	
第14回全国マスター会	平成24年10月24日	東京都上野精養軒	高円宮妃殿下をお迎えして開催
国際バラとガーデニングショウでコンテスト開催	平成25年5月	西武ドーム	ハンギングバスケットコンテスト企画
第15回全国マスター会	10月4日	鳥取県ホテルニューオータニ	
花とみどりのおもてなしプロジェクトに参加	平成26年4月	東京都お台場にて	JFSとの共催
第16回全国マスター会	10月28日	静岡県日本平ホテル	
第1回本部講師認定試験実施	平成27年1月31日	名古屋にて	初めての本部講師認定試験開始
一般社団法人日本ハンギングバスケット設立	4月1日		
農業イノベーション事業に参加	6月	各地にて各支部が参加	5年間のイノベーション事業への参加
第17回全国マスター会	11月4日	愛知県名古屋 Marriott アソシアホテル	設立20周年記念式典
20周年記念誌発行	平成28年10月		
RHSJ解散につき資格変更	10月		RHSJ資格の併用から単独資格になる
オリパラに向けてのおもてなし参加	6月-12月	東京都お台場にて	夏花壇での実証試験を兼ねて
20周年記念視察旅行	7月2日-9日	英国各地	40名で協会主催初めての企画旅行
世界らん展出展	平成29年2月10日-17日	東京ドーム	蘭を使ったハンギングバスケット展示
20周年記念書籍発行『ハンギングバスケット&コンテナ』	3月	主婦の友社発行	20周年記念誌としてのムック本を格上げ
第18回全国マスター会	10月	咲くやこの花館	